



# 日本遺産



# 認定

## 北前船寄港地・船主集落

文化庁は4月28日、平成29年度「日本遺産」の認定結果を発表しました。

このうち、日本海沿岸に点在する7道県11市町の異空間をつなぐ歴史ストーリー※「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」が選ばれました。

「日本遺産は、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語る「ストーリー」を文化庁が認定するものです。地域に点在する魅力ある有形・無形の文化財群を一体的に整備・活用し、発信することで地域の活性化を図るために平成27年度に制度化されました。

今年度は、全国の自治体から申請があった79件の中から、4月5日の



▲「北前船のふるさと河野」のシンボルとして、八幡丸のモニュメントが平成5年に北前船主の館右近家前駐車場に設置されました。

### 構成市町：(7道県) 11市町

- (北海道) 函館市、松前町
- (青森県) 鯨ヶ沢町、深浦町
- (秋田県) 秋田市
- (山形県) 酒田市
- (新潟県) 新潟市、長岡市
- (石川県) 加賀市
- (福井県) 敦賀市、南越前町



### ※「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」

日本海沿岸には、山を風景の一部に取り込む港町が点々とみられます。そこには、港に通じる小路が随所に走り、通りには広大な商家や豪壮な船主屋敷が建っています。これらの港町は、荒波を越え、「動く総合商社」として巨万の富を生み、各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主集落で、時を重ねて彩られた異空間として今も人々を惹きつけてやみません。

★5月11日、関係する11市町は、連携した活動を進めるための協議会を設立。今後、ホームページ制作や広域観光周遊ルート作成など活性化計画を進めます。

「日本遺産審査委員会」の審議を経て、新たに17件が認定されました。

町は、昭和62年から旧河野村が始めた「北前船の歴史むらづくり」事業を受け継ぎ、北前船という歴史的文化遺産の活用により地域の活性化を目指してきました。

平成2年に、日本海五大船主の右近家の隆盛を物語る資料館「北前船主の館右近家」を一般公開、平成3年からは、北前船の「西廻り」航路フォーラムを開催（これまでに8回実施）するなど、北前船が残した文化・歴史を発掘・保存し、交流と発信を図りました。また、平成25年度からは、北前船歴史空間再生プロジェクト事業で、河野北前船主通りなどの景観整備や観光ガイドの育成等を行い、観光客へのおもてなしの充実に努めてきました。

さらに平成28年度には、江戸時代から明治時代にかけて日本海の手で活躍した「北前船」をテーマに、文化庁の「日本遺産登録を目指す全国の関連自治体による北前船寄港地日本遺産登録推進協議会」に参画し、今年2月に11自治体が連携して申請をしました。

今回の発表を受け、4月28日、北前船主の館右近家で、敦賀市・南越前町合同によるセレモニーを開催し、集まった町民や関係者らで会場はお祝いムードに包まれました。



▲「南越前町が11市町の中に参加できたのも、渚上市長からのご推挙をいただいたお蔭です。」と謝辞。「今後は、案内の会の追加メンバー募集、土産物の充実、観光協会との連携を深めるなど、更なる観光事業に取り組みたいです。」とあいさつする岩倉町長



▲お祝いムードに包まれる会場



▲「南越前町に多くの観光客が訪れて、更に敦賀の昆布が売りになり、互いに活性化することを期待します。」とあいさつされる渚上隆信 敦賀市長



▲敦賀市の「おぼろ昆布」と町の「北前船手拭い」のふるまいを受け取る来場者



▲河野保育園児が「つみのそこにはあおいうさぎ」「おふね」の歌を披露